

8-4-7 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

技術委員会をはじめ各委員会（SWG 含む）からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取組み内容について、検討・審議を行った。平成30年度は西日本豪雨災害のため、予定していた四国支部との意見交換を見送った。令和元年に改めて行う予定である。

(2) 照査特別WGへの参画、品質セミナー講師派遣

照査特別WGへ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用PPTを作成した。また、平成30年10月2日～10月31日に全国9支部9会場で開催された「平成29年度技術委員会／品質セミナー“エラー防止のために”」に9名の講師を派遣した。セミナーでは、河川構造物のエラー事例の紹介とともに、河川計画のエラー事例についても紹介した。そして、河川管理施設の特異性、新しい設計法への対応、設計時の情報伝達の重要性、設計条件の妥当性確認などに関する講演を行い、エラー防止の重要性等について説明した。合わせて前年度、当専門委員会でもまとめた「河川砂防技術基準(案)」のQ&Aについても紹介した。

(3) 「河川砂防技術基準(案)同解説設計編」の改定にむけた作業部会への参画

河川砂防技術基準(案)同解説設計編〔I〕は、平成9年に改訂後、一度も改定されていない。

河川構造物専門委員会としては、平成29年度に議論した内容をQ&Aの形でまとめて、平成30年5月に建設コンサルタンツ協会のHPにアップした。また、平成30年度には国土交通省水管理・国土保全局治水課を事務局として、①河川堤防、護岸・水制、②樋門・水門の2つの作業部会が設立され、それぞれに当専門委員会から2名ずつ計4名の委員が参加し、改定に向けて

議論を行っている（令和元年も継続）。

(4) 全国建設研修センターへの講師派遣

（一財）全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成21年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する5日間の研修に対してテキストを作成し、講師を派遣した。

(5) 「河川管理施設の点検結果評価基準等検討会」への委員派遣

国土交通省水管理・国土保全局が開催する「河川管理施設の点検結果評価基準等検討会」へ委員を派遣した。委員会での検討結果を踏まえ、「堤防当河川管理施設及び河道の点検・評価要領」が、平成31年4月に国土交通省水管理・国土保全局河川環境課より公表された。

(6) CIMSWG、および国土地理院PRISMへの参画

CIMSWGは設計、PRISMは測量でi-Constructionの施策である「ICTの全面的な活用」の推進に向けた活動を行っている。

(7) H30.7 西日本豪雨現地視察

H30.7 西日本豪雨に建設コンサルタンツ協会として、河川計画委員会と合同で現地調査を行うとともに技術支援の活動記録を作成した。

(8) その他

主な活動を以下に示す。

- ・ 対外活動委員会WG(水機構)への参画
- ・ 設計ソフトウェア連絡WGへの参画
- ・ RCCM 自主学习教材改定作業

2. 次年度の活動について

- ① 照査特別WGへの参画・品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ② 「河川砂防技術基準(案)同解説設計編」に関する国土交通省水管理・国土保全局治水課を事務局とした作業部会への参画(継続)
- ③ 建コン支部(四国支部)との意見交換
- ④ 「河川構造物設計研修」講師派遣
- ⑤ 各種委員会(CIM関連等)への参画
(河川構造物専門委員会委員長 佐藤 昭二)